統計データでみる

沖縄の農林水産業



今をデータに、
未来をカタチに。





政府統計

内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課

令和8年10月

はじめに

この小冊子は、10月18日の「統計の日」にちなんで、当課が毎年開催している「統計データでみる沖縄の農林水産業～「消費者の部屋」特別展示～」において、沖縄県の農林水産業の現状について、分かりやすくグラフ等で紹介するための資料として、最新の農林水産統計調査の結果を用いて作成したものです。

10月18日は『統計の日』

～我が国における近代統計の始まり～

我が国最初の近代的統計である「府県物産表」（農林水産物や鉱業生産物の生産高をまとめたもの）に関する太政官布告の公布日が10月18日（明治３年９月24日（太陰暦）が現行の太陽暦では10月18日にあたる。）であることから、国民の統計に対する関心と理解が深まり、国や地方公共団体などが実施する統計調査へより一層の協力が得られることを目的として、10月18日を「統計の日」と定めたものです。

利用者のために

１　統計数値は、原則として下表の基準によりラウンド(四捨五入)したため、計と内訳が一致しない場合があります。

原数		7桁以上（100万）	6桁（10万）	5桁（万）	4桁（千）	3桁以下（百）
ラウンドする桁（下から）		3桁	2桁	2桁	1桁	ラウンドしない
例	ラウンドする前の数値	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	ラウンドした数値	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

２　統計表中に使った記号は、次のとおりです。

「－」……事実のないもの
「…」……事実不詳又は調査を欠くもの
「０」……単位に満たないもの
「△」……負数又は減少(下落)したもの
「ｘ」……秘密保護上統計数値を公表しないもの

政府統計

このマークは、統計法に基づく国の統計調査であることを示し、調査票情報の秘密保護に万全を期すことをお約束するものです。

目　　次

1　沖縄県の概況 ・・・

1　沖縄県の概況

■面積、人口、総生産等

【面　積】

総土地面積	228,216ha
耕地面積	35,800ha
田耕地面積	725ha
林野面積	114,586ha

【人口・就業者数】

総　人　口	1,466,548人
男性人口	722,050人
女性人口	744,498人
総就業者数	577,419人
第１次産業就業者数	23,267人
第２次産業就業者数	79,353人
第３次産業就業者数	451,426人

（総就業者数は分類不能産業を含む。）

【世帯数】

総世帯数	655,345世帯
総農家数	13,270戸
林家数	122戸
漁業経営体数	2,658経営体

（漁業経営体数は、事業所を含む。）

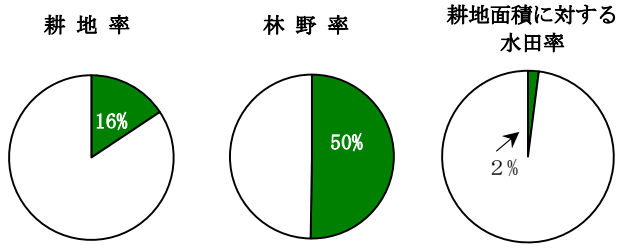
【総生産（令和５年度）】

県内総生産	4兆6,430億円
第１次産業（農業・林業・水産業）	440億円
第２次産業（鉱業・製造業・建設業）	5,909億円
第３次産業（サービス業等）	4兆406億円

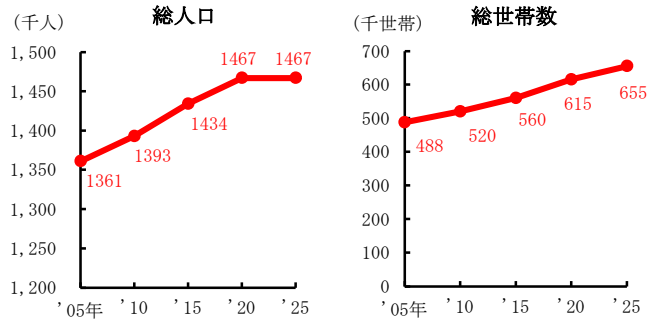
※輸入品に課される税等を算入していないため、計と内訳が一致しません。

1人当たり県民所得	232万円
1人当たり国民所得	352万円

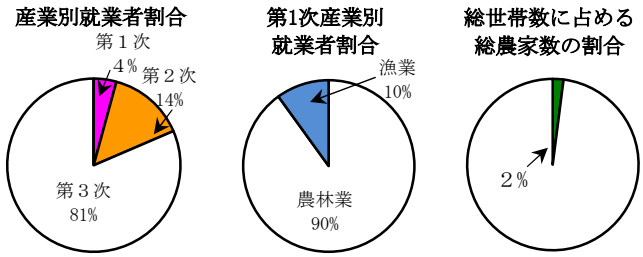
■面積



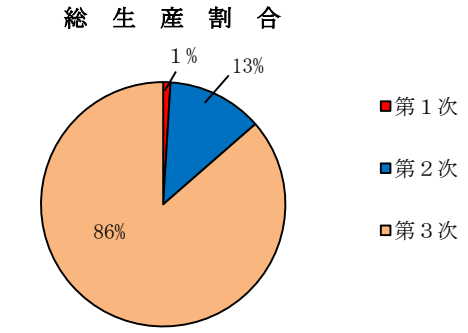
■総人口・総世帯数の動き



■就業者

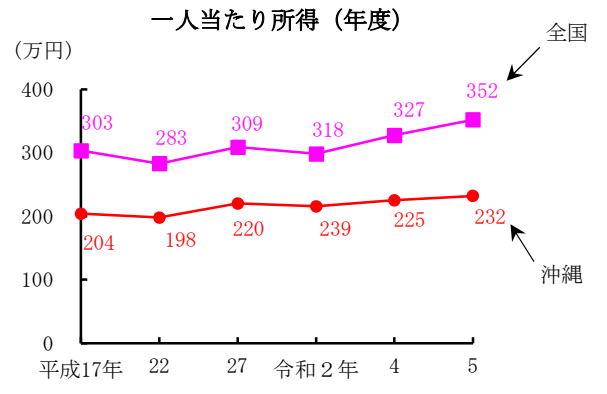


■総生産割合



注：単位未満の数値は四捨五入しています。

■一人当たり所得



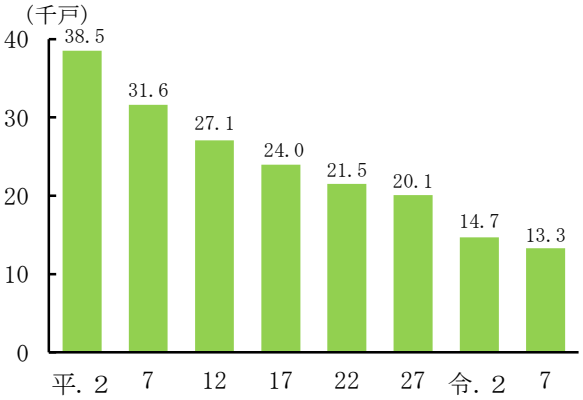
資料：　総土地面積は、国土地理院『令和８年全国都道府県市区町村別面積調』（４月１日時点）。林野面積、総農家数、林家数は、農林水産省大臣官房統計部『2025年農林業センサス』。耕地面積、田耕地面積は、農林水産省大臣官房統計部『令和７年耕地面積調査』。人口、世帯数は、総務省統計局『令和７年国勢調査』。就業者数は、総務省統計局『令和２年国勢調査』。漁業経営体数は、農林水産省大臣官房統計部『2023年漁業センサス』。総生産は、内閣府経済社会総合研究所『令和５年度国民経済計算』、沖縄県『令和５年度県民経済計算（県民所得統計）』。

2 農家数、基幹的農業従事者数及び経営耕地面積

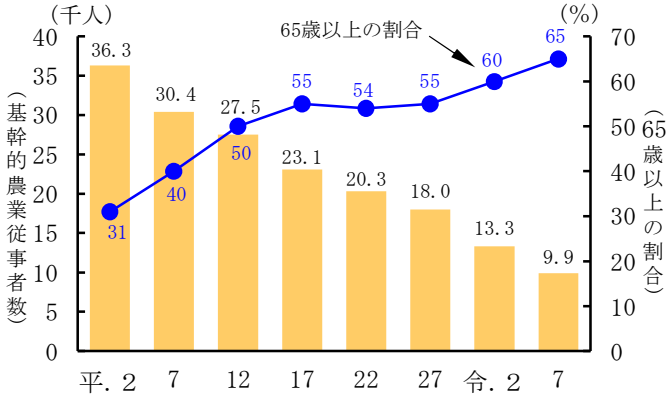
1 農家数及び基幹的農業従事者数 － 農家数及び基幹的農業従事者数はともに減少 －

農家数は減少傾向で推移しており、令和７年の農家数は１万3,270戸で、平成２年の３万8,512戸と比べて約３割となっています。農業生産を担う基幹的農業従事者数も減少傾向で推移しており、令和７年の基幹的農業従事者数は9,873人で、平成２年の３万6,347人と比べて約３割となっています。また、令和７年の基幹的農業従事者数に占める65歳以上の割合は約65％となっており、増加傾向で推移しています。

農家数の推移



基幹的農業従事者数の推移



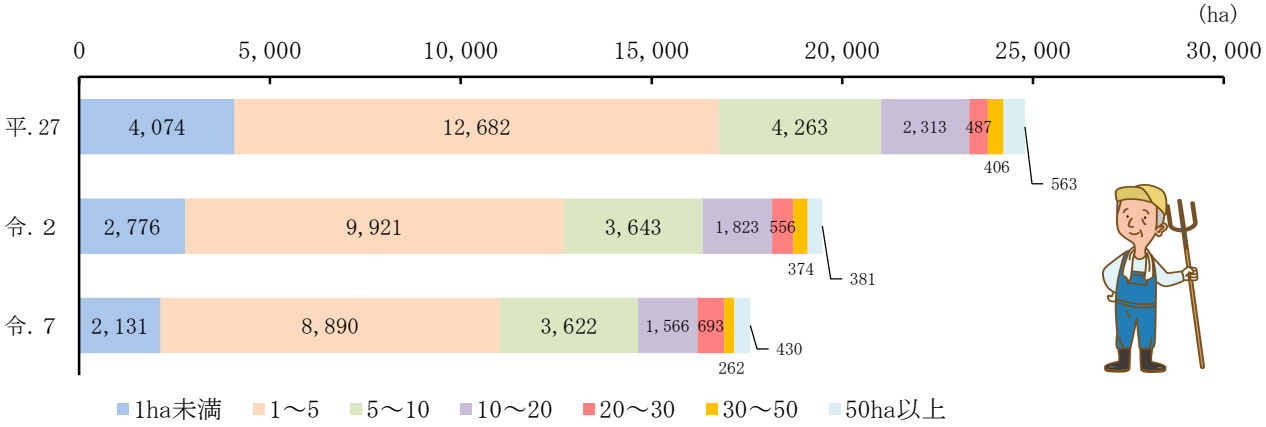
【農家数及び基幹的農業従事者の推移】　　単位：戸、人

区　分	平. 2	7	12	17	22	27	令. 2	7
総　農　家　数	38,512	31,588	27,088	24,014	21,547	20,056	14,747	13,270
基幹的農業従事者数	36,347	30,404	27,532	23,092	20,318	18,017	13,288	9,873
うち65歳以上	11,446	12,180	13,894	12,611	10,963	9,982	8,035	6,424
65歳以上の割合（％）	31	40	50	55	54	55	60	65

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』
注：平成２年～平成22年は販売農家の基幹的農業従事者数、平成27年以降は個人経営体の基幹的農業従事者数。

2 経営耕地面積規模別面積 － 20～30ha規模で増加 －

経営耕地面積は全体的に減少傾向にあります。しかし、20～30ha規模の経営耕地面積は増加傾向にあります。



【経営耕地面積規模別面積の推移】　　単位：ha

区　分	計	1ha未満	1～5	5～10	10～20	20～30	30～50	50ha以上
平. 27	24,790	4,074	12,682	4,263	2,313	487	406	563
令. 2	19,475	2,776	9,921	3,643	1,823	556	374	381
7	17,595	2,131	8,890	3,622	1,566	693	262	430

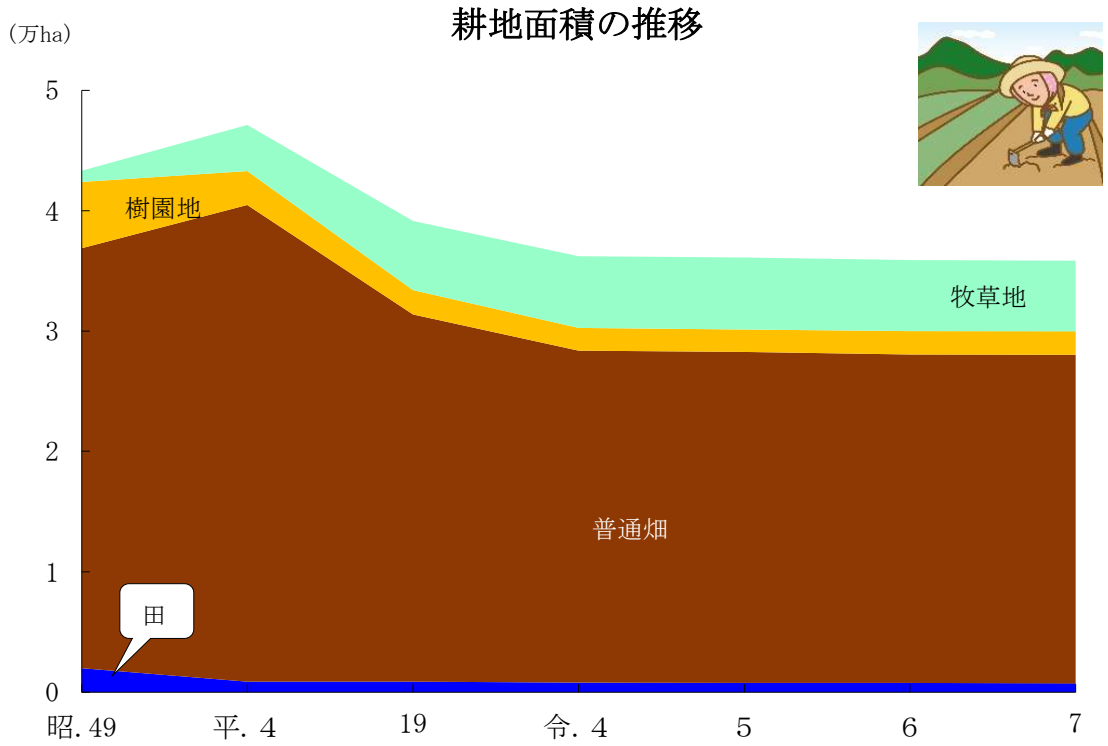
資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

3　耕　地　面　積

― 畑が98％を占める ―

耕地面積は、現行調査を開始した昭和49年以降、平成４年の４万7,100haをピークに減少傾向で推移しており、令和７年は３万5,800haで、昭和49年の約76％となっています。このうち畑が３万5,100haで全体の98％を占め、田は725haで全体の２％です。なお、全国計における耕地面積に占める畑の割合は約46％です。

畑種類別では、普通畑が最も多く、樹園地は、パインアップルなどの減少により、令和７年は昭和49年の約36％となっています。牧草地は、肉用牛の飼養頭数増加に伴い、令和７年は昭和49年の約６倍の増加となっています。



【耕地面積の推移】　　単位：ha

区　分	昭. 49	平. 4	19	令. 4	5	6	7
計	43,400	47,100	39,100	36,300	36,100	35,900	35,800
田	1,980	890	879	787	751	751	725
畑　計	41,400	46,200	38,200	35,500	35,400	35,200	35,100
普通畑	34,900	39,600	30,500	27,600	27,500	27,300	27,300
樹園地	5,520	2,810	2,020	1,880	1,880	1,940	1,960
牧草地	934	3,820	5,730	5,960	6,000	5,890	5,870

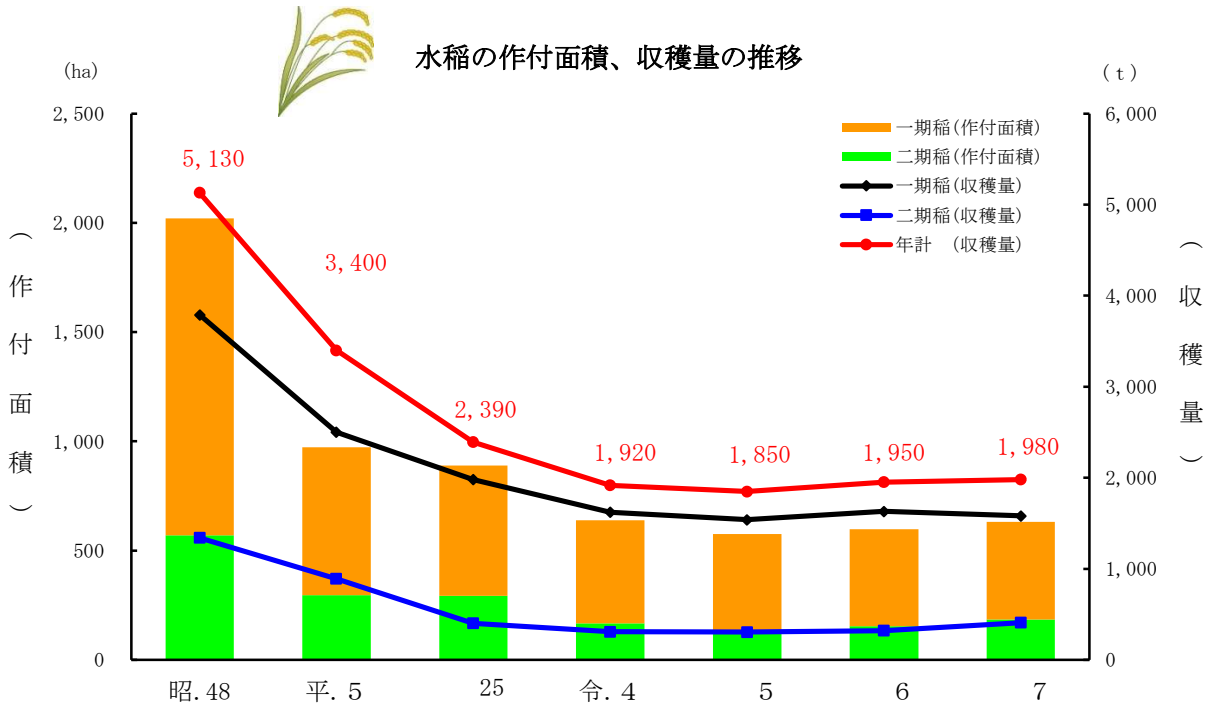
資料：農林水産省大臣官房統計部『耕地面積調査』

4　水稲の作付面積及び収穫量

― 令和７年産 作付面積及び収穫量は増加 ―

令和７年産の水稲作付面積(一期稲・二期稲計)は632haで、前年産に比べ33ha(６％)増加しました。また、収穫量(一期稲・二期稲計)は1,980ｔで、前年産に比べ30ｔ(２％)増加しました。

生産農家の高齢化に伴う離農等により、復帰後の昭和48年産に比べ、作付面積で1,388ha(69%)、収穫量で3,150ｔ(61%)それぞれ減少しています。



単位　作付面積：ha　10ａ当たり収量：kg　収穫量：ｔ

【水稲の作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量の推移】

区分	作付面積			10ａ当たり収量			収穫量		
		一期稲	二期稲		一期稲	二期稲		一期稲	二期稲
昭.48	2,020	1,450	571	254	262	234	5,130	3,790	1,340
平.5	973	676	297	349	370	300	3,400	2,500	891
25	890	596	294	268	332	137	2,390	1,980	403
令.4	639	471	168	301	343	184	1,920	1,620	309
5	576	441	135	321	350	227	1,850	1,540	306
6	599	445	154	326	366	210	1,950	1,630	323
7	632	447	185	314	353	221	1,980	1,580	409

資料：農林水産省大臣官房統計部『水稲調査』

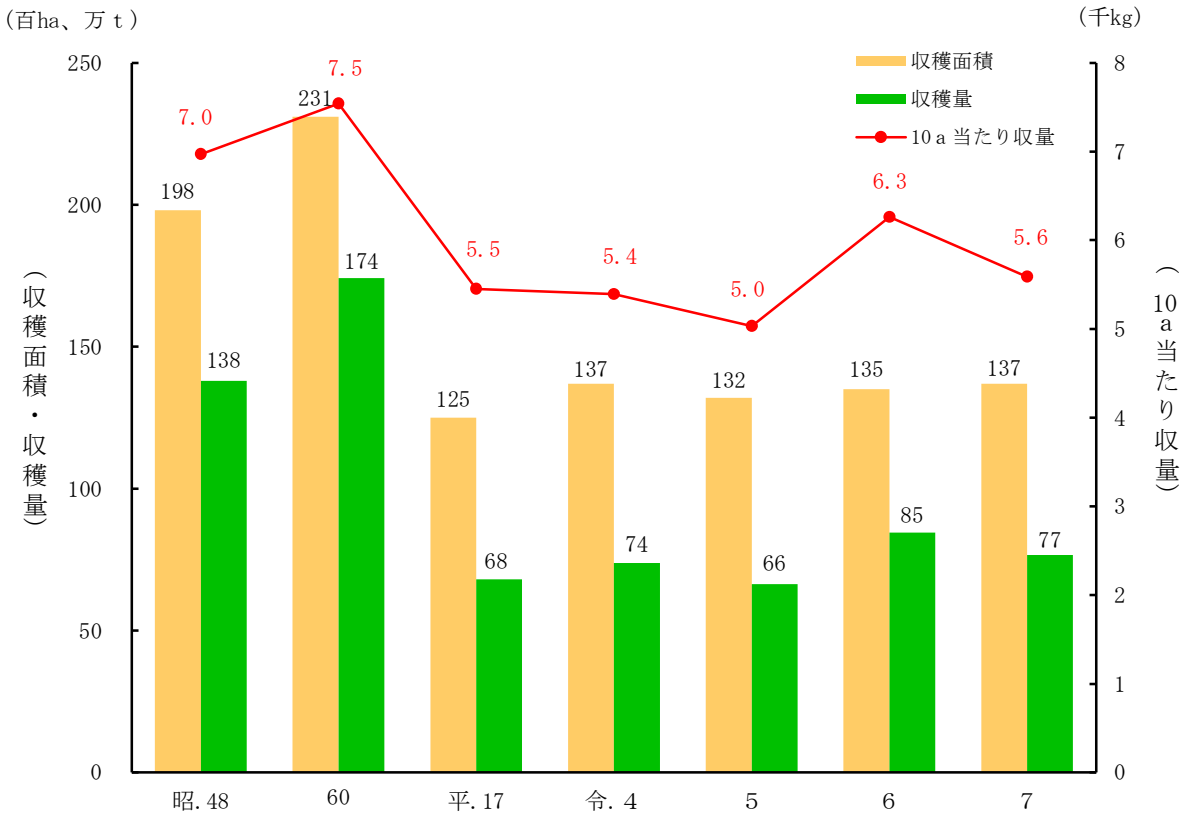
5　さとうきびの収穫面積及び収穫量

― 令和７年産の収穫量は前年産に比べ９％減少 ―

さとうきびの収穫面積は、昭和60年産以降、減少傾向で推移しており、令和７年産の収穫面積は１万3,700haで昭和48年産の69％となっています。
また、令和７年産の収穫量は76万5,800ｔで、前年産に比べ９％減少しました。



さとうきびの収穫面積、10ａ当たり収量及び収穫量の推移



単位　収穫面積：ha
　　10ａ当たり収量：kg
　　収穫量：ｔ

【さとうきびの収穫面積、10ａ当たり収量及び収穫量の推移】

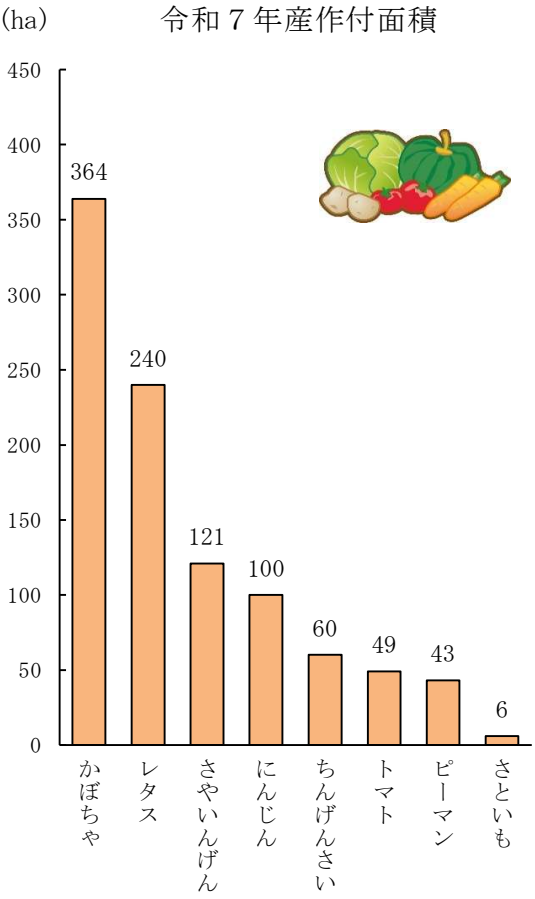
区　分	昭. 48	60	平. 17	令. 4	5	6	7
収穫面積	19,800	23,100	12,500	13,700	13,200	13,500	13,700
10ａ当たり収量	6,970	7,540	5,450	5,390	5,030	6,260	5,590
収穫量	1,380,000	1,741,000	680,700	737,600	664,400	845,200	765,800

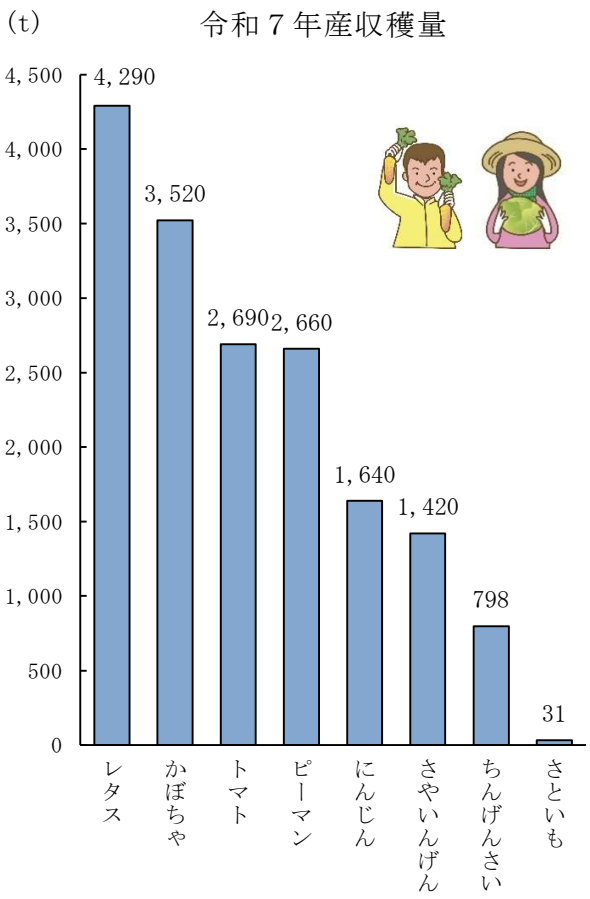
資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計調査（工芸作物）』
注：昭和48年産データは沖縄県農林水産部『さとうきび及び甘しゃ糖生産実績』

6　野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

― 作付面積はかぼちゃが１位、収穫量はレタスが１位 ―

令和７年産野菜の作付面積(注)は、かぼちゃが１位で364 ha、次いでレタス240 ha、さやいんげん121haとなっています。また、収穫量はレタスが１位で4,290ｔ、次いでかぼちゃ3,520t、トマト2,690ｔとなっています。





【令和７年産調査野菜の作付面積、収穫量及び出荷量（概数）】

品　目	作付面積	収穫量	出荷量	品　目	作付面積	収穫量	出荷量
	ha	t	t		ha	t	t
にんじん	100	1,640	1,310	トマト	49	2,690	2,140
さといも	6	31	26	うち、ミニトマト	13	470	419
ちんげんさい	60	798	655	ピーマン	43	2,660	2,260
レタス	240	4,290	3,580	うち、ししとう	0	7	5
かぼちゃ	364	3,520	3,140	さやいんげん	121	1,420	1,230

資料：農林水産省大臣官房統計部『野菜生産出荷統計』

注：調査品目は、指定野菜及び指定野菜に準ずる野菜のうち、全国において沖縄県が主産県となっている品目であり、沖縄県内において作付けされている全ての品目を調査対象としたものではない。

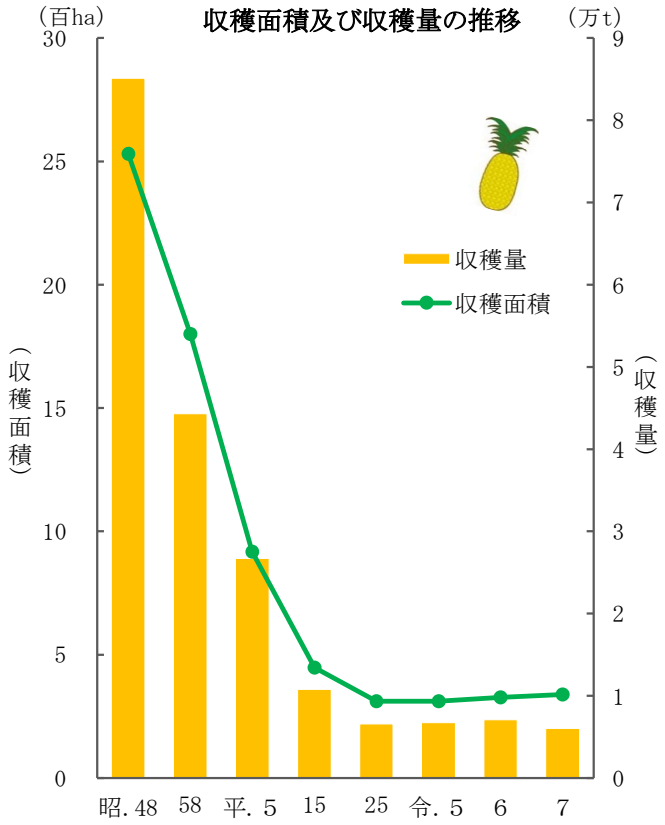
7　パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量

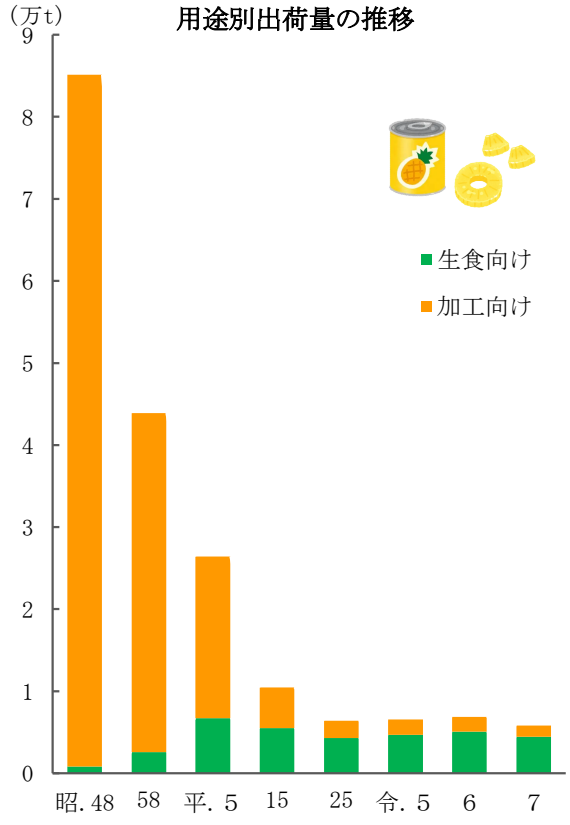
― 令和７年産の収穫量及び出荷量とも前年産より15%減少 ―

パインアップルについては、復帰後は昭和48年産をピークに、安価な外国産パインアップルの輸入増加やパインアップル缶詰の輸入自由化を背景に生産農家数の減少等により収穫面積及び収穫量とも減少傾向で推移してきました。このような中、生食向けを中心に作付けの拡大を図ったこと等により、近年は横ばいで推移しています。

令和７年産の収穫面積は339ha、収穫量は6,030ｔで、前年産に比べ1,070ｔ(15%)減少しました。

また、出荷量は5,830ｔで、前年産に比べ1,060ｔ(15%)減少しました。生食向けが4,470ｔ、加工向けが1,360ｔとなっています。





【パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量の推移】

単位　収穫面積：ha　収穫量・出荷量：t

区　分	昭.48年産	58	平.5	15	25	令.5	6	7
収穫面積	2,530	1,800	917	448	311	311	327	339
収穫量	85,100	44,300	26,700	10,800	6,590	6,750	7,100	6,030
出荷量	85,100	43,900	26,500	10,500	6,410	6,550	6,890	5,830
うち生食向け	835	2,600	6,730	5,500	4,310	4,690	5,080	4,470
うち加工向け	84,300	41,300	19,700	4,960	2,100	1,860	1,810	1,360

資料：農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』

注：令.７年は概数値。昭和48年産の収穫面積は、便宜上、12月現在における植え付け後２年以上の栽培面積を計上。

8　花き（切り花類）の作付面積及び出荷量

― 令和７年産花き（切り花類）の作付面積及び出荷量は前年より減少 ―

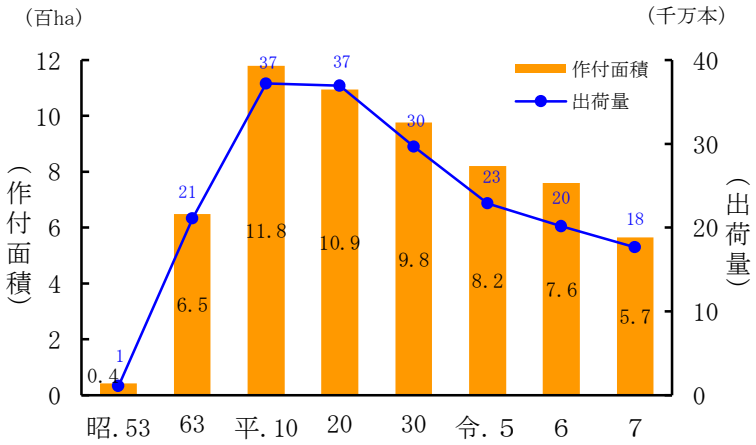
① 切り花類

切り花類の作付面積は、近年減少傾向で推移しています。令和７年産は565haで、前年産に比べ195ha（26%）減少しています。

また、令和７年産の出荷量は１億7,630万本で、前年産に比べ約13%減少となっています。



切り花類の作付面積及び出荷量の推移

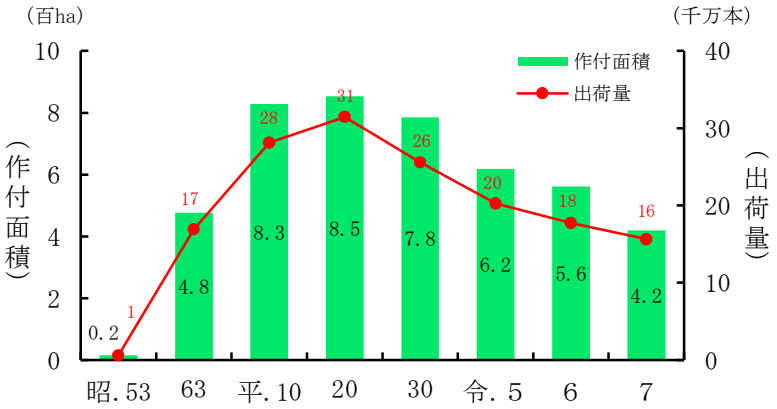


② きく

きくの作付面積は、近年減少傾向で推移しています。令和７年産の作付面積は419haで前年産に比べ142ha（25%）減少し、出荷量は１億5,630万本で、前年産に比べ約12%減少となっています。



きくの作付面積及び出荷量の推移



【花き（切り花類）の作付面積及び出荷量の推移】

区　分	切り花類計		き　く		洋ラン類		その他の切り花	
	作付面積（a）	出荷量（千本）	作付面積（a）	出荷量（千本）	作付面積（a）	出荷量（千本）	作付面積（a）	出荷量（千本）
昭.53	4,200	10,942	1,500	6,060	－	－	2,700	4,882
63	64,800	211,000	47,600	169,300	2,800	4,230	14,400	37,470
平.10	118,000	372,100	82,800	281,400	4,900	6,600	30,300	84,100
20	109,400	369,500	85,400	314,500	2,640	2,730	21,360	52,270
30	97,600	296,700	78,400	255,600	…	…	19,200	41,100
令.5	82,000	229,000	61,800	202,700	…	…	20,200	26,300
6	76,000	201,400	56,100	177,300	…	…	19,900	24,100
7	56,500	176,300	41,900	156,300	…	…	14,600	20,000

資料：農林水産省大臣官房統計部『花き生産出荷統計』
注：令和３年産から洋ラン類は調査対象外となったため、その他の切り花に含まれている。

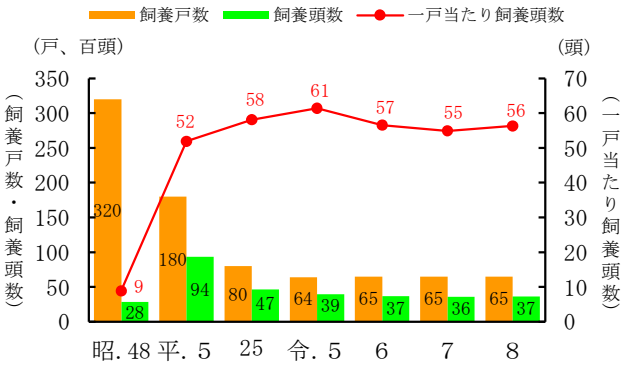
9　家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数

1　乳用牛　－　飼養頭数が増加　－

令和８年の乳用牛の飼養戸数は65戸で、前年同、昭和48年と比べ255戸(80%)減少しています。また、飼養頭数は3,660頭で、前年に比べ90頭(３%)増加、昭和48年と比べ820頭(29%)増加しています。さらに、一戸当たりの飼養頭数は56頭で、昭和48年の約６倍に増加しており、大規模化が進んでいます。



乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移



単位　飼養戸数：戸
　　飼養頭数：頭
　　一戸当たり飼養頭数：頭

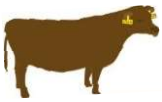
【乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区　分	昭. 48	平. 5	25	令. 5	6	7	8
飼養戸数	320	180	80	64	65	65	65
飼養頭数	2,840	9,350	4,650	3,930	3,680	3,570	3,660
一戸当たり飼養頭数	9	52	58	61	57	55	56

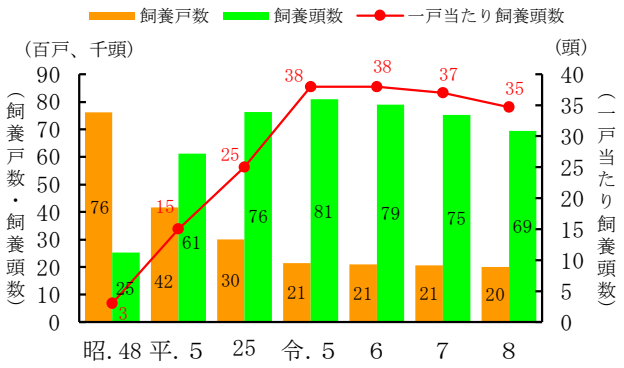
資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

2　肉用牛　－　飼養戸数及び飼養頭数が減少　－

令和８年の肉用牛の飼養戸数は2,000戸で、前年に比べ60戸(３%)減少、昭和48年と比べ5,620戸（74%）減少しています。また、飼養頭数は６万9,400頭で前年に比べ5,900頭(８%)減少、昭和48年と比べ４万4,200頭(275%)増加しています。さらに、一戸当たりの飼養頭数は35頭で、昭和48年の約12倍に増加しており、大規模化が進んでいます。



肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移



単位　飼養戸数：戸
　　飼養頭数：頭
　　一戸当たり飼養頭数：頭

【肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区　分	昭. 48	平. 5	25	令. 5	6	7	8
飼養戸数	7,620	4,170	3,010	2,140	2,100	2,060	2,000
飼養頭数	25,200	61,200	76,400	81,000	79,000	75,300	69,400
肉用種	…	59,800	75,600	80,500	78,300	74,600	68,800
子取り用めす牛	…	33,700	47,700	45,200	44,200	41,500	38,600
肥育用牛	…	13,600	5,910	6,100	6,650	6,850	6,750
育成牛	…	…	22,100	29,200	27,500	26,200	23,500
※乳用種	150	1,370	720	520	680	790	620
一戸当たり飼養頭数	3	15	25	38	38	37	35

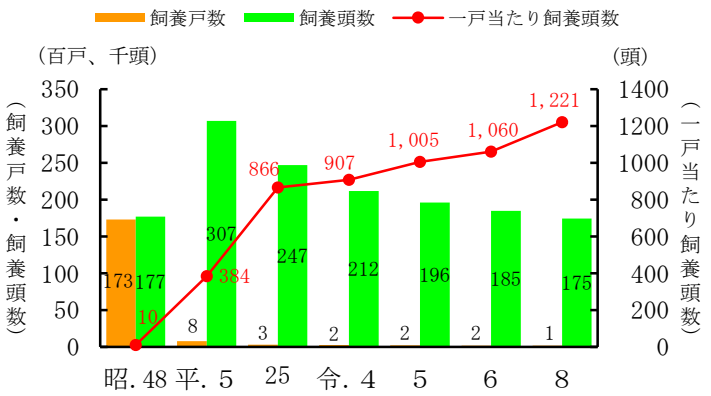
資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』
※ホルスタイン種等の乳用種のうち、肉用を目的として飼育している牛をいう。

3 豚 ― 飼養戸数及び飼養頭数が減少、大規模化が進む ―

令和８年の豚の飼養戸数は143戸で、令和６年に比べ31戸(11%)減少、昭和48年と比べ１万7,157戸（99%）減少しています。また、飼養頭数は17万4,600頭で、令和６年に比べ9,900頭(５%)減少、昭和48年と比べ2,400頭(１%)減少しています。さらに一戸当たり飼養頭数は1,221頭で、昭和48年の約120倍に増加しており、大規模化が進んでいます。



豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移



単位：飼養戸数：戸、飼養頭数：頭、一戸当たり飼養頭数：頭

【豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

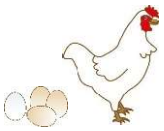
区　　分	昭. 48	平. 5	25	令. 4	5	6	8
飼 養 戸 数	17,300	800	285	219	195	174	143
飼 養 頭 数	177,000	307,000	246,800	211,700	195,900	184,500	174,600
一戸当たり飼養頭数	10	384	866	907	1,005	1,060	1,221

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

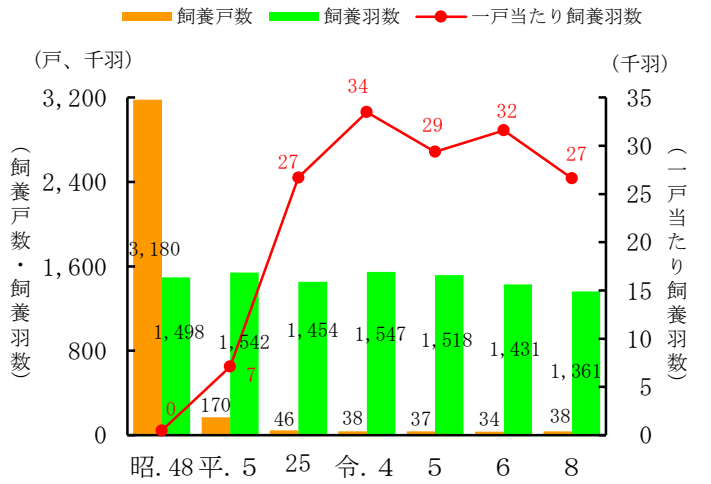
注：令和７年は農林業センサス実施年により調査休止。

4 採卵鶏 ― 飼養戸数は増加、飼養羽数は減少 ―

令和８年の採卵鶏の飼養戸数(種鶏のみの飼養者及び成鶏めす1,000羽未満の者は除く。)は38戸で、令和６年に比べ４戸（12%）増加、昭和48年と比べ3,142戸（99%）減少しています。また、飼養羽数(種鶏を除く。)は136万1,000羽で、令和６年に比べ７万羽（５%）減少、昭和48年と比べ13万7,000羽（９%）減少しています。さらに、一戸当たり飼養羽数は２万7,000羽で、昭和48年と比べると増加しており、大規模化が進んでいます。



採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移



単位：飼養戸数：戸、飼養羽数：千羽、一戸当たり飼養羽数：千羽

【採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移】

区　　分	昭. 48	平. 5	25	令. 4	5	6	8
飼 養 戸 数	3,180	170	46	38	37	34	38
飼 養 羽 数	1,498	1,542	1,454	1,547	1,518	1,431	1,361
一戸当たり飼養羽数	0	7	27	34	29	32	27

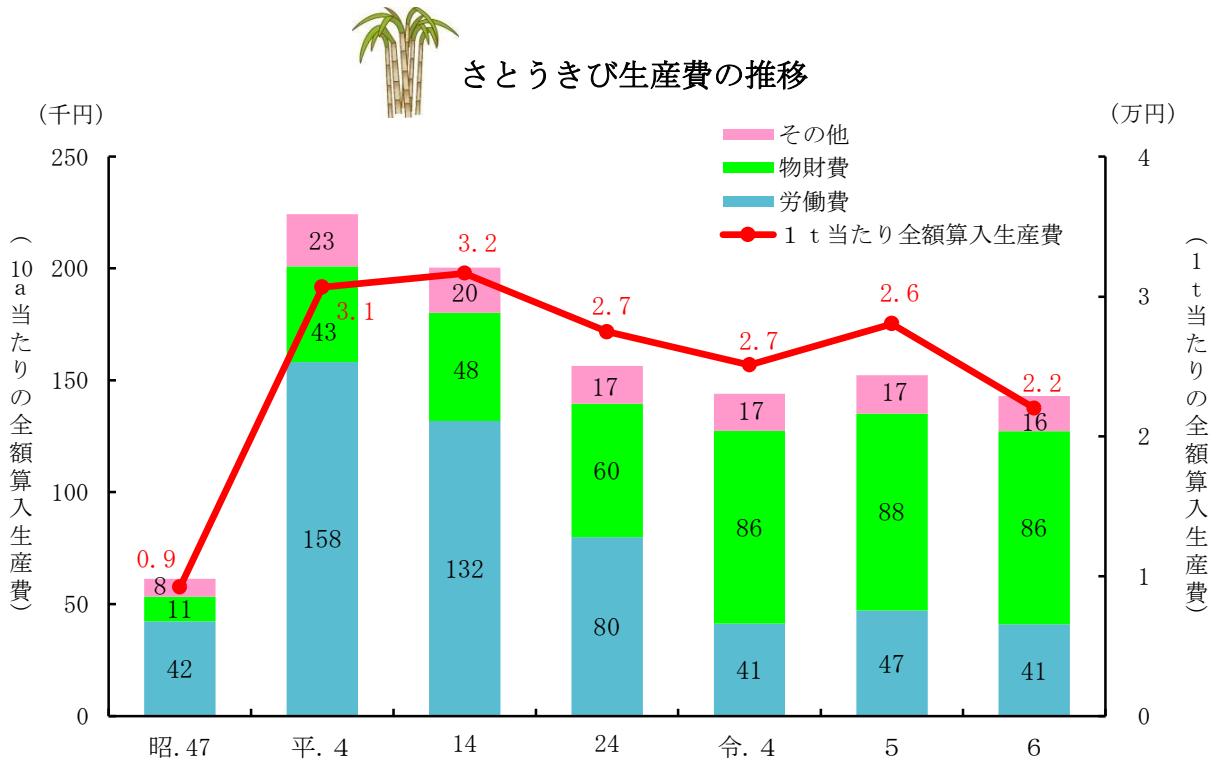
資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

注：平成５年は成鶏めす羽数300羽未満の飼養者を除く、平成15年以降は1,000羽未満を除く、昭和58年以前は全数調査。令和７年は農林業センサス実施年により調査休止。

10　さとうきび生産費

－ 令和６年産は前年産に比べ減少（10a当たり） －

令和６年産さとうきびの10ａ当たり生産費（全額算入生産費）は14万3,024円で、前年産に比べ9,238円（6.1%）減少しています。１ｔ当たりの生産費（全額算入生産費）は２万2,002円で、前年産に比べ6,040円（21.5%）減少しています。



単位 { 金額：円 / 収量：kg

【さとうきび生産費の推移】

	区　分	昭.47	平. 4	14	24	令. 4	5	6
10ａ当たり	資本利子・地代全額算入生産費	61,378	224,244	200,327	156,481	143,958	152,262	143,024
	支払利子・地代算入生産費	53,377	202,973	183,644	144,263	133,377	141,841	133,568
	生産費（副産物価額差引）	53,377	201,005	180,165	139,614	127,303	135,214	127,225
	労　働　費	42,334	158,184	131,917	79,993	41,290	47,235	40,928
	物　財　費	11,043	42,821	48,248	59,621	86,022	87,985	86,297
	収　量	6,661	7,312	6,329	5,695	5,735	5,430	6,500
１ｔ当たり	資本利子・地代全額算入生産費	9,216	30,667	31,653	27,473	25,104	28,042	22,002
	支払利子・地代算入生産費	8,015	27,758	29,017	25,328	23,260	26,123	20,547
	生産費（副産物価額差引）	8,015	27,488	28,467	24,511	22,200	24,902	19,571
	労　働　費	6,356	21,633	20,844	14,044	7,200	8,699	6,296
	物　財　費	1,659	5,855	7,623	10,467	15,002	16,204	13,275

資料：農林水産省大臣官房統計部『農業経営統計調査　さとうきび生産費統計』

11　農　業　産　出　額

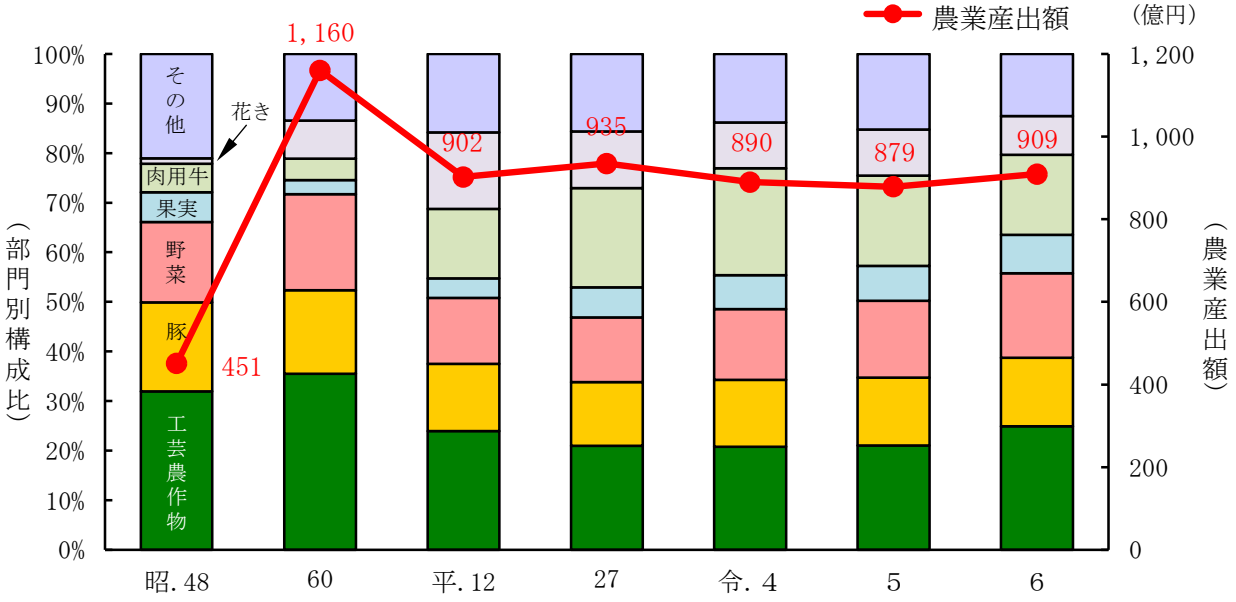
1　農業産出額　－ 前年に比べ30億円増加－

令和６年農業産出額は909億円で、前年に比べ30億円（3.4%）増加し、全国35位となりました。これは、さとうきびが37億円（22.3%）増加したためです。

また、部門別では、耕種部門は542億円で、前年に比べ56億円（11.5%）増加しました。畜産部門は367億円で、前年に比べて26億円(6.6%)の減少となりました。

さらに、部門別構成割合は、工芸農作物24.9%（うち、さとうきびが22.3%）が最も高く、 次に、野菜が17.1%、肉用牛が16.2%と続いています。

農業産出額及び部門別構成比の推移



【農業産出額及び構成比の推移】　　単位：億円、（　）は%

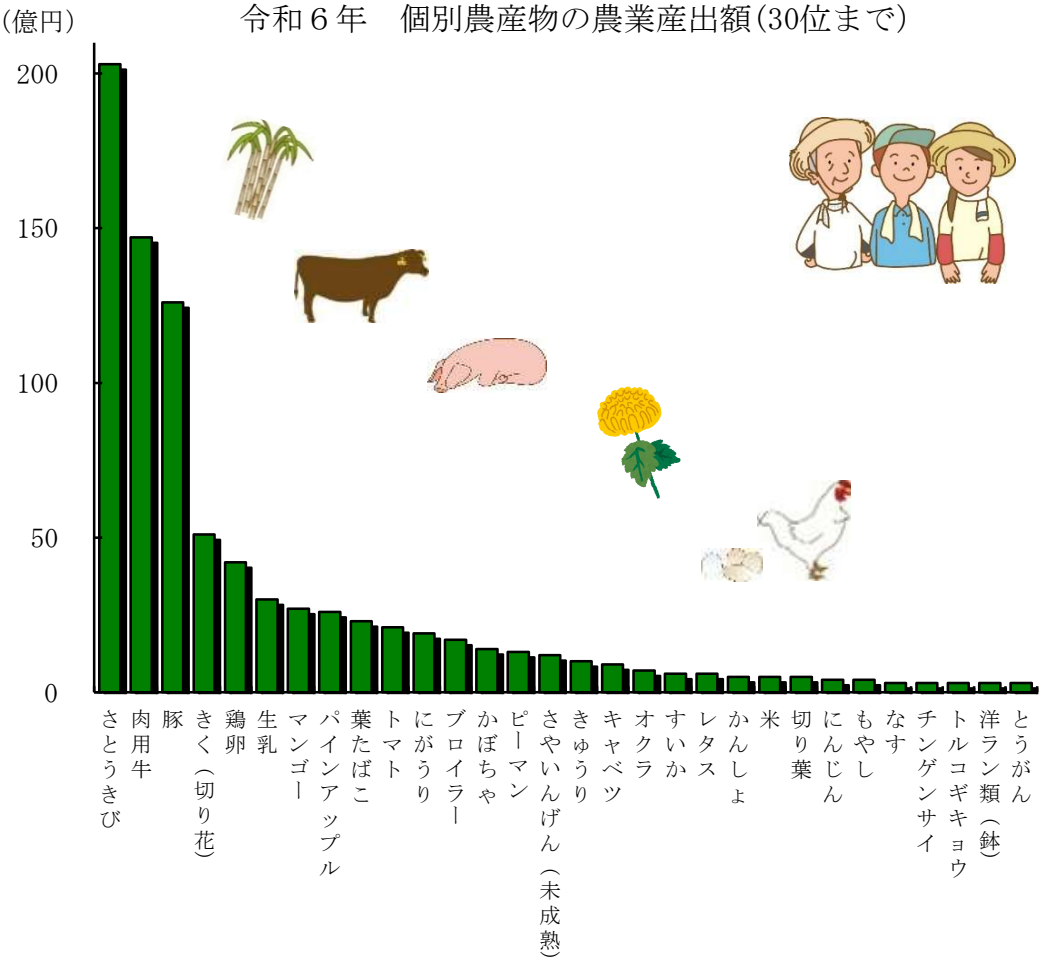
区　分	昭.48		60		平.12		27		令.4		5		6	
農業産出額	451	(100)	1,160	(100)	902	(100)	935	(100)	890	(100)	879	(100)	909	(100)
耕種部門	280	(62)	795	(69)	542	(60)	508	(54)	477	(54)	486	(55)	542	(60)
野菜	73	(16)	225	(19)	120	(13)	122	(13)	127	(14)	136	(15)	155	(17)
果実	27	(6)	33	(3)	36	(4)	57	(6)	61	(7)	62	(7)	70	(8)
花き	5	(1)	89	(8)	139	(15)	107	(11)	82	(9)	82	(9)	71	(8)
工芸農作物	144	(32)	412	(36)	216	(24)	196	(21)	185	(21)	185	(21)	226	(25)
うちさとうきび	138	(31)	374	(32)	166	(18)	162	(17)	166	(19)	166	(19)	203	(22)
畜産部門	171	(38)	362	(31)	360	(40)	426	(46)	412	(46)	393	(45)	367	(40)
肉用牛	26	(6)	50	(4)	126	(14)	187	(20)	192	(22)	160	(18)	147	(16)
豚	81	(18)	195	(17)	122	(14)	120	(13)	120	(13)	120	(14)	126	(14)

資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

2　個別農産物の農業産出額 － 上位10品目で約８割を占める －

個別農産物別では、さとうきび203億円、次いで肉用牛147億円、豚126億円、きく51億円、鶏卵42億円の順となっています。上位10品目で農業産出額全体の約８割を占めています。

令和６年　個別農産物の農業産出額(30位まで)



【令和６年個別農産物の順位と農業産出額】　　単位：億円

順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額
1　(1)	さとうきび	203	11　(11)	にがうり	19	21　(14)	かんしょ	5
2　(4)	肉用牛	147	12　(6)	ブロイラー	17	22　(9)	米	5
3　(2)	豚	126	13　(28)	かぼちゃ	14	23　…	切り葉	5
4　…	きく（切り花）	51	14　(49)	ピーマン	13	24　(10)	にんじん	4
5　(3)	鶏卵	42	15　…	さやいんげん（未成熟）	12	25　…	もやし	4
6　(16)	生乳	30	16　(12)	きゅうり	10	26　(33)	なす	3
7　…	マンゴー	27	17　(7)	キャベツ	9	27　…	チンゲンサイ	3
8　(5)	パインアップル	26	18　…	オクラ	7	28　…	トルコギキョウ	3
9　(13)	葉たばこ	23	19　(22)	すいか	6	29　…	洋ラン類（鉢）	3
10　…	トマト	21	20　(24)	レタス	6	30　(29)	とうがん	3

資料　：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』
注　　：(　)書きは昭和48年の順位。

3 市町村別農業産出額 － 宮古島市が１位 －

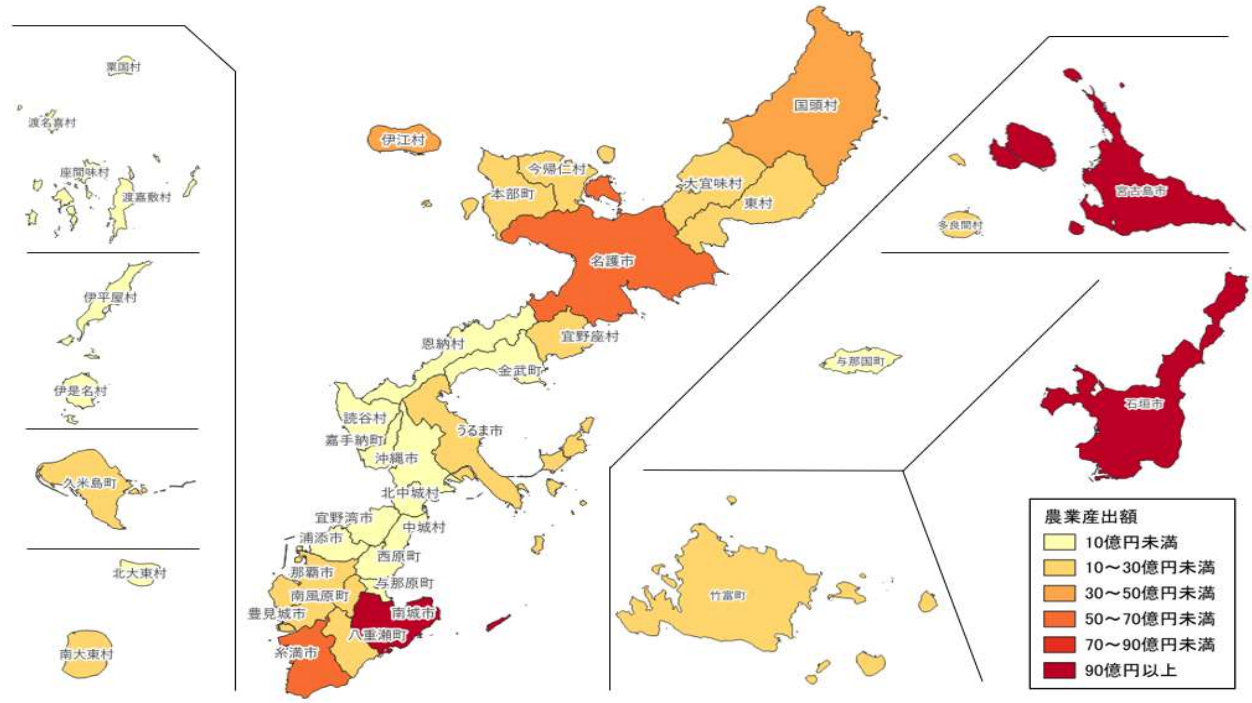
令和６年の市町村別農業産出額は、宮古島市が171億円で県内１位、最も農業産出額が多い部門が工芸農作物で114億円となりました。

次いで、石垣市が113億円で県内２位、最も農業産出額が多い部門が肉用牛で46億円となりました。さらに、南城市が94億円で県内３位、最も農業産出額が多い部門が豚で47億円となりました。

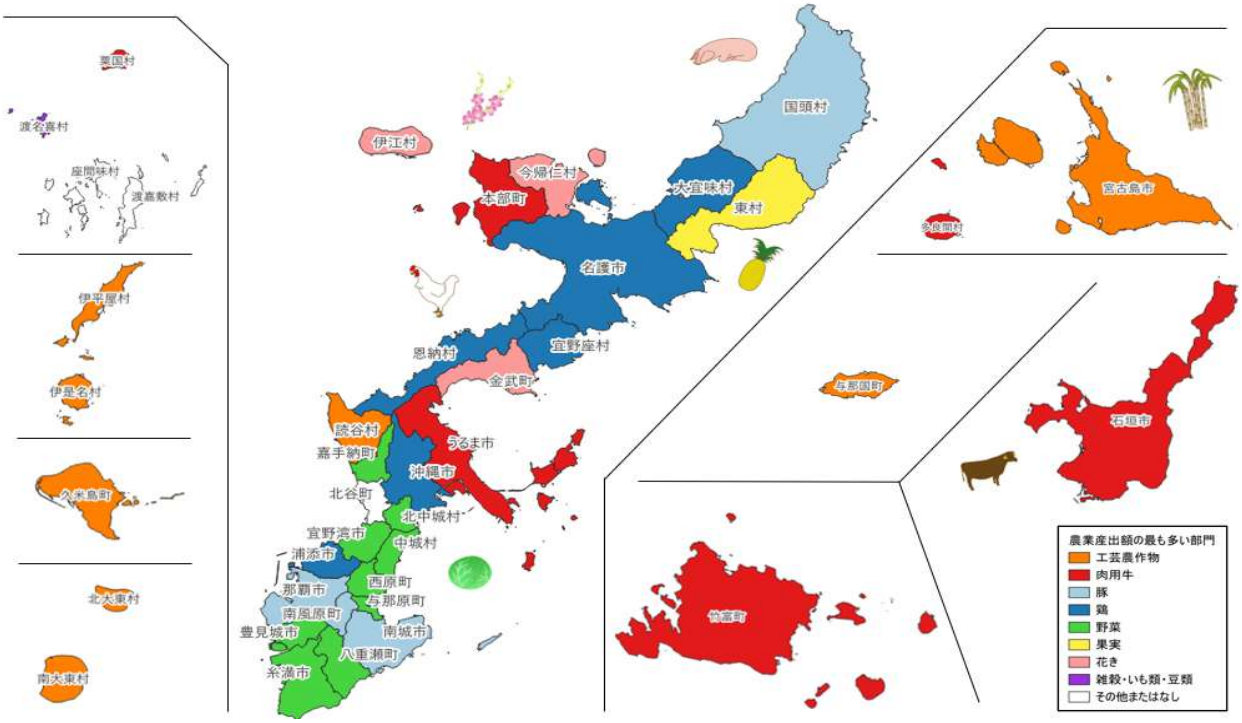
単位：億円

順位	市町村	農業産出額		
			１位部門	１位部門の産出額
1	宮古島市	171	工芸農作物	114
2	石垣市	113	肉用牛	46
3	南城市	94	豚	47
4	名護市	70	鶏	21
5	糸満市	51	野菜	21
6	伊江村	31	花き	11
7	国頭村	31	豚	22
8	今帰仁村	30	花き	14
9	久米島町	29	工芸農作物	14
10	うるま市	27	肉用牛	8

【市町村別農業産出額（令和６年）】



【農業産出額の最も多い部門（令和６年）】



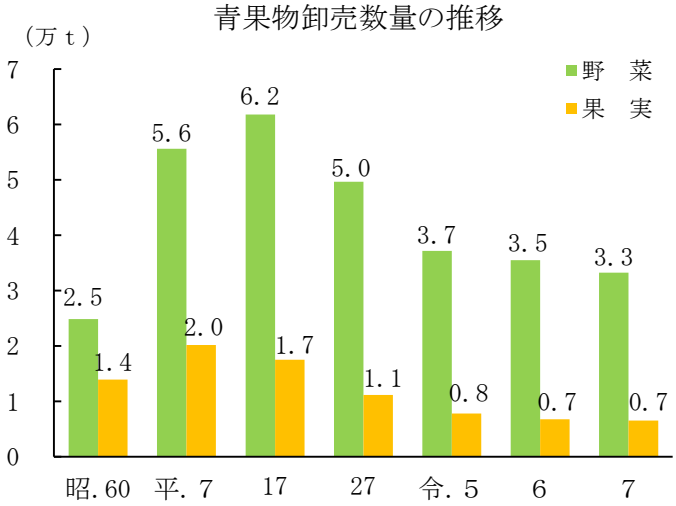
12　青果物の卸売数量及び卸売価格

1　卸売数量　－ 野菜、果実ともに近年は減少傾向 －

沖縄県中央卸売市場における令和７年の野菜の卸売数量は３万3,266ｔで、前年に比べ2,194ｔ(6.2%)減少、果実の卸売数量は6,505ｔで、前年に比べ206ｔ（3.1%）減少となっています。



青果物卸売数量の推移



【卸売数量の推移】　　単位：ｔ

区　分	昭.60	平. 7	17	27	令. 5	6	7
野　菜	24,850	55,656	61,787	49,654	37,192	35,460	33,266
果　実	13,891	20,191	17,485	11,128	7,786	6,711	6,505

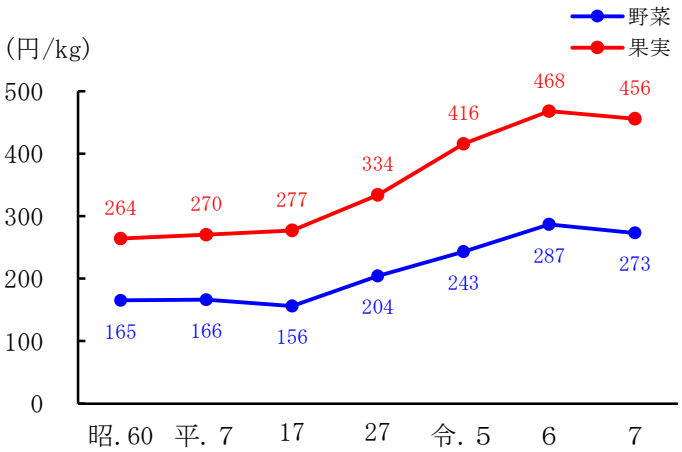
資料：農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注：令. 7年は概数値

2　卸売価格　－前年に比べ野菜は約５％下落、果実は約３％下落－

令和７年の野菜の１kg当たり卸売価格は273円で前年に比べ14円（4.9%）下落し、昭和60年の165円と比べると108円（65.5%）上昇しました。また、令和７年の果実の１kg当たり卸売価格は456円で前年に比べ12円（2.6%）下落し、昭和60年の264円と比べると192円（72.7%）上昇しました。



青果物１kg当たり卸売価格の推移



【卸売価格の推移】　　単位：円/kg当たり

区　分	昭.60	平. 7	17	27	令. 5	6	7
野　菜	165	166	156	204	243	287	273
果　実	264	270	277	334	416	468	456

資料：農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注：令. 7年は概数値

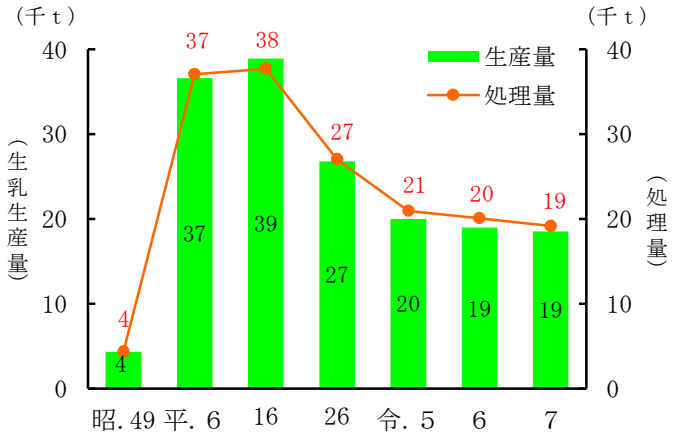
13　生乳及び飲用牛乳等の生産量

1　生乳の生産量及び処理量　－ 近年は同水準で推移 －

令和７年の沖縄県の生乳生産量は１万8,501ｔで、前年に比べ470ｔ(2.5%)減少となっています。また、生乳処理量は１万9,161ｔで、前年に比べ927ｔ(4.6%)減少しました。これを用途別にみると、牛乳等向けが１万8,989ｔで、処理量のほとんどを占めており、前年に比べ975ｔ(4.9%)減少となっています。



生乳生産量及び処理量の推移



【生乳の生産量及び処理量の推移】　　単位：ｔ

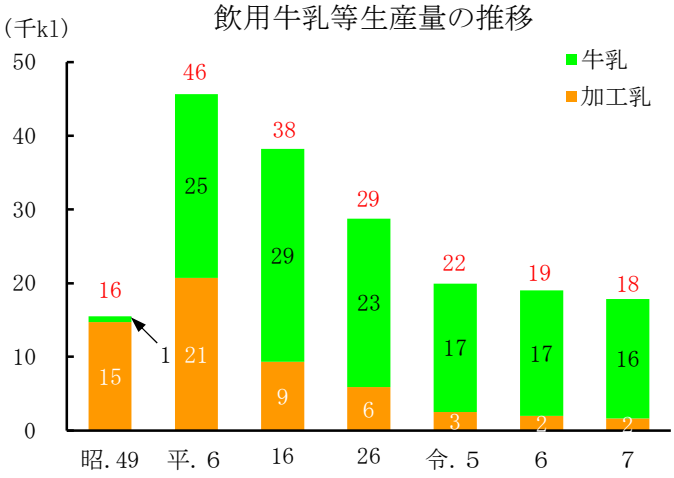
区　分	昭.49	平.6	16	26	令.5	6	7
生乳生産量	4,356	36,585	38,899	26,797	20,011	18,971	18,501
用途別処理量	4,356	37,050	37,708	27,032	20,940	20,088	19,161
牛乳等向	3,856	34,947	36,065	26,916	20,798	19,964	18,989
乳製品向	500	2,029	15,251	2	12	21	70
その他	－	74	118	114	130	103	102

資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』、　注：用途別処理量は、県外からの移入量も含む。

2　飲用牛乳等生産量　－ 近年は牛乳の割合が高く推移 －

令和７年の沖縄県の飲用牛乳等の生産量は１万7,824klで、前年に比べ1,176kl（6.2%）減少となっています。また、種類別では牛乳は１万6,177klで、前年に比べ855kl（5.0%）減少し、加工乳は1,647klで、前年に比べ321kl（16.3%）減少となっています。さらに、牛乳と加工乳の割合でみると、昭和49年は、牛乳が５%、加工乳が95%と加工乳の割合が高かったのですが、令和７年では、牛乳が91%、加工乳が９%と牛乳の割合が高くなっています。

飲用牛乳等生産量の推移



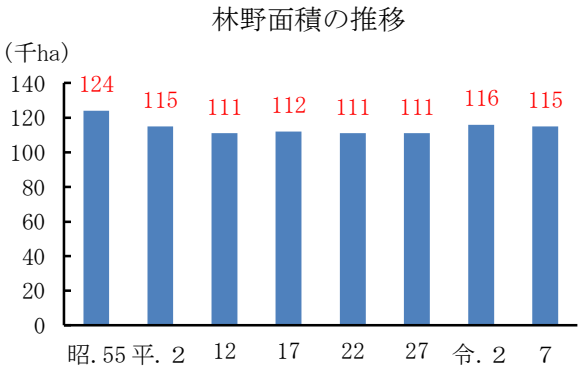
【飲用牛乳等生産量の推移】　　単位：kl

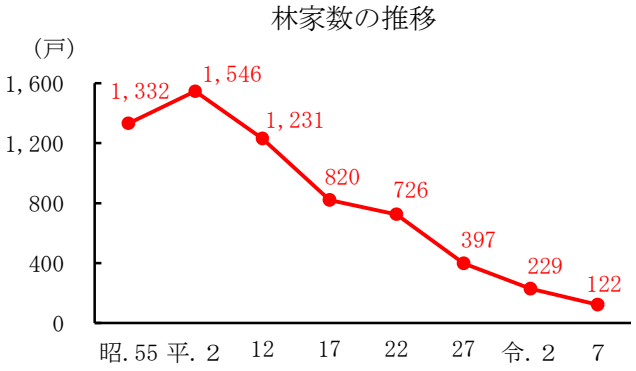
区　分	昭.49	平.6	16	26	令.5	6	7
飲用牛乳等計	15,524	45,670	38,205	28,748	19,942	19,000	17,824
牛乳	830	24,971	28,889	22,855	17,394	17,032	16,177
加工乳	14,694	20,699	9,316	5,893	2,548	1,968	1,647

資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』

14　林野面積・林家数及び林業産出額

1 林野面積及び林家数 － 令和２年に比べ林野面積、林家数ともに減少 －





令和７年の林野面積は11万５千haで、令和２年に比べ１千ha（１％）減少となっています。また、林家数は122戸で、令和２年に比べ107戸（47％）減少となっています。

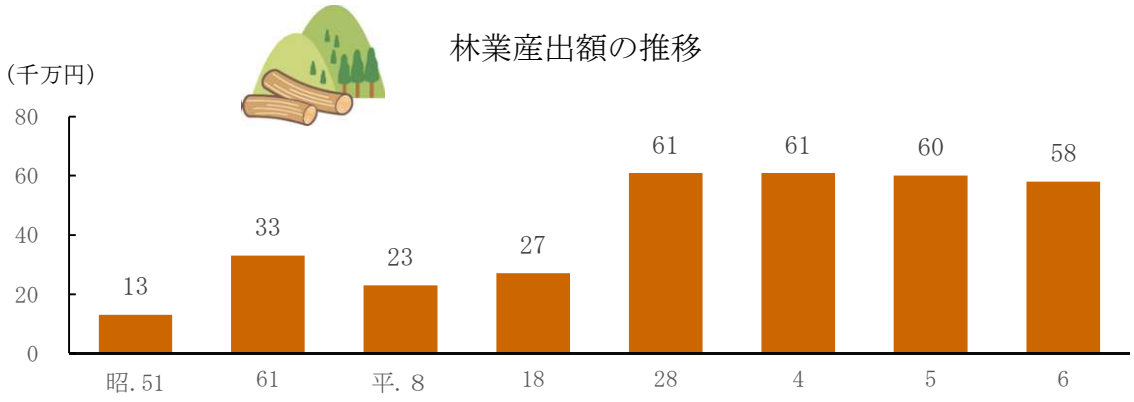
【林野面積及び林家数の推移】　　単位：千ha、戸

区　　分	昭. 55	平. 2	12	17	22	27	令. 2	7
林野面積	124	115	111	112	111	111	116	115
林 家 数	1, 332	1, 546	1, 231	820	726	397	229	122

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』
注：林家とは、調査期日現在の保有山林面積が１ha以上ある世帯をいいます。

2 林業産出額 － 令和６年は5.8億円で前年より２千万円減少 －

令和６年の林業産出額は５億８千万円で、前年に比べ２千万円（3.3％）減少しました。これは、林業産出額の約97％を占める栽培きのこ類が減少したためです。



【林業産出額の推移】　　単位：千万円

区　　分	昭. 51	61	平. 8	18	28	令. 4	5	6
林業産出額	13	33	23	27	61	61	60	58
木　　材	12	12	11	2	4	x	2	1
薪　　炭	1	7	5	3	2	1	1	1
栽培きのこ類	0	13	7	21	55	58	57	56

資料：農林水産省大臣官房統計部『林業産出額』

15　海面漁業生産量及び海面漁業産出額

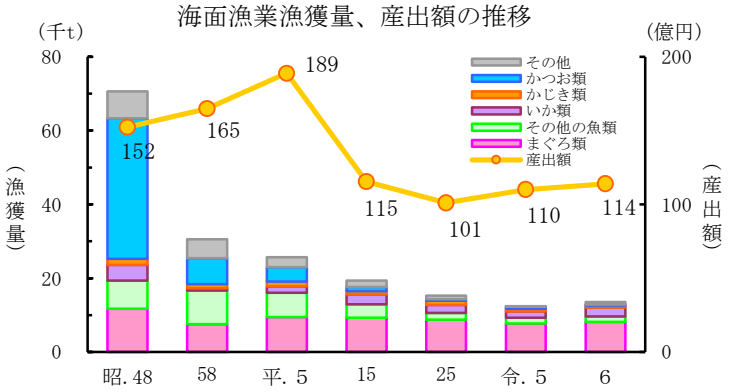
1　海面漁業　－ 漁獲量の約６割がまぐろ類 －

令和５年の漁獲量は１万2,418ｔで、前年に比べ1,729t（8.7%）増加しました。また、産出額は110億2,700万円で前年に比べ３億4,700万円（3.1%）増加しました。

昭和48年の漁獲量はかつお類が約５割を占めていましたが、平成５年以降、まぐろ類の割合が大きくなり、平成20年頃からは約６割を占めています。



海面漁業漁獲量、産出額の推移



【主要魚種別漁獲量及び産出額の推移】　単位：ｔ、百万円

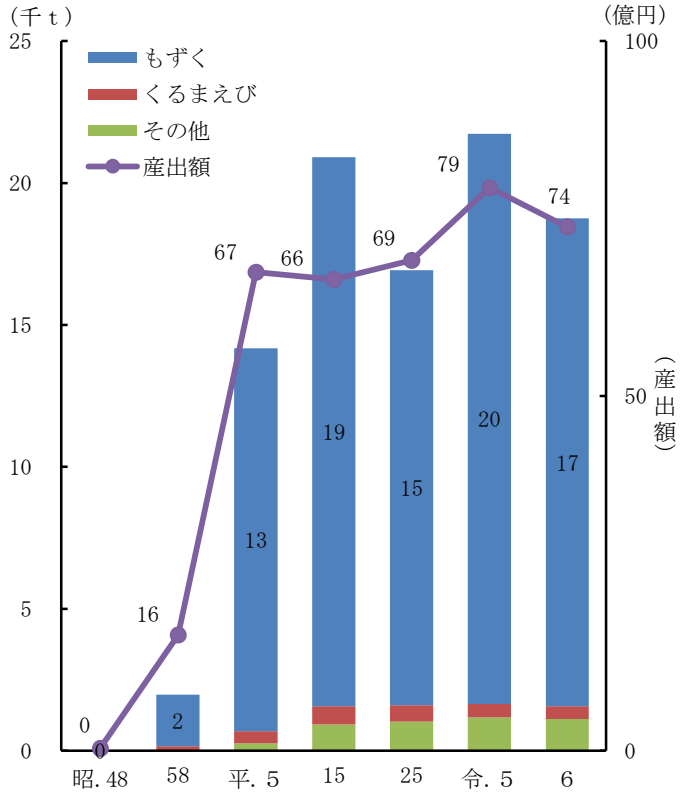
年　次	漁獲量	まぐろ類	かじき類	かつお類	その他の魚類	いか類	産出額
昭. 48	70,678	11,712	1,698	38,048	7,635	4,229	15,234
58	30,536	7,626	1,152	6,991	9,060	576	16,480
平. 5	25,681	9,518	1,290	3,874	6,578	1,755	18,885
15	19,414	9,352	892	1,150	3,591	2,676	11,542
25	15,294	8,746	1,092	473	1,850	2,207	10,093
令. 5	12,418	7,769	583	275	1,544	1,786	11,027
6	13,502	8,205	607	248	1,446	2,399	11,374

資料：農林水産省大臣官房統計部『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

2　海面養殖業　－ 日本一のもずくの産地 －

令和６年の収獲量は１万8,752ｔで、前年に比べ2,976ｔ（13.7%）減少となっています。また、産出額は73億8,000万円で、前年に比べ5億5,600万円（7.0%）減少となっています。品目別では、もずくの収獲量は１万7,181tで、全国シェアはほぼ100%となっています。くるまえびの収獲量は450ｔで、全国シェアは32.5%となっています。

海面養殖業収獲量、産出額の推移



【養殖魚種別漁獲量及び産出額の推移】

単位：ｔ、百万円

年　次	収獲量	くるまえび	もずく類	産出額
昭. 48	11	2	－	33
58	1,976	154	1,816	1,633
平. 5	14,184	425	13,491	6,742
15	20,909	645	19,336	6,640
25	16,934	560	15,336	6,908
令. 5	21,728	469	20,084	7,936
6	18,752	450	17,181	7,380

資料：農林水産省大臣官房統計部
『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

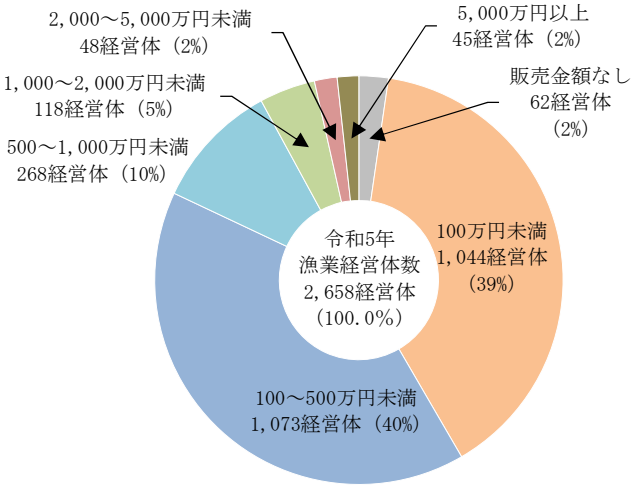
16　海面漁業経営体数及び漁船隻数の推移

1　海面漁業経営体数　－ 平成30年に比べ養殖業は増加、海面漁業は減少 －

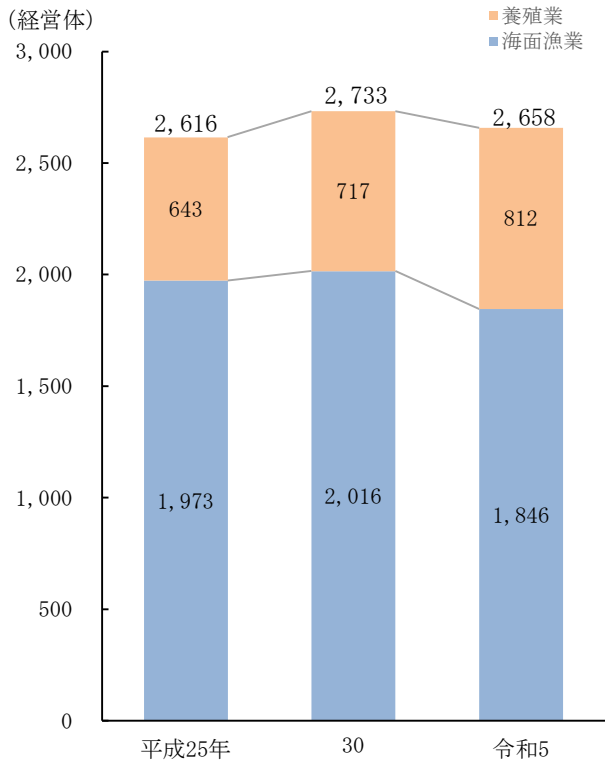
令和５年の海面漁業経営体数は2,658経営体で、平成30年に比べ75経営体（2.7%）減少しました。

これは、養殖業経営体が95経営体（13.2%）増加したものの、海面漁業経営体が170経営体（8.4%）減少したことによります。

販売金額規模別経営体数



海面漁業の漁業経営体の推移

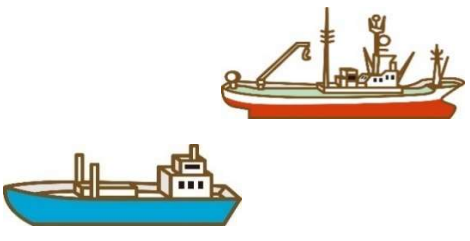


資料：農林水産省大臣官房統計部『漁業センサス』

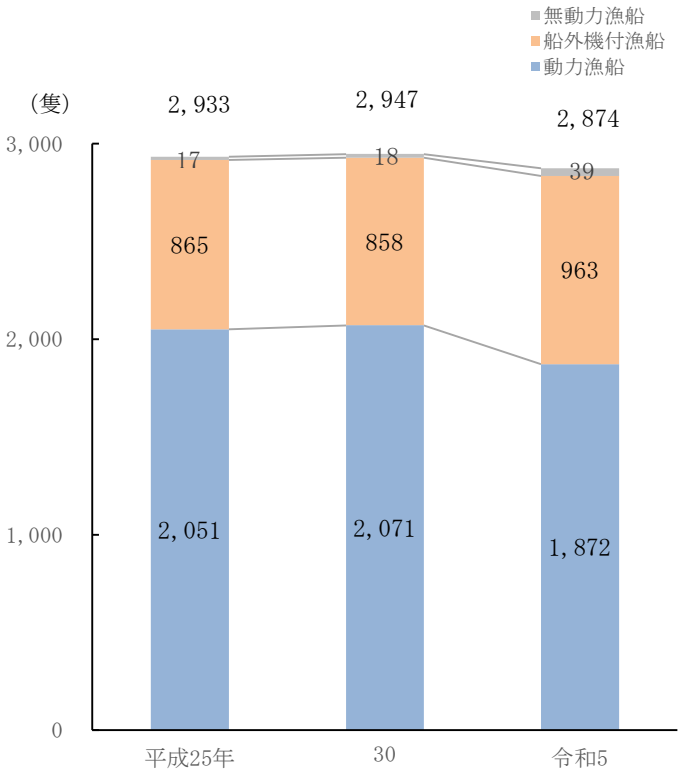
2　漁船隻数の推移　－ 平成30年に比べ減少 －

漁業経営体が調査期日前１年間に使用した漁船のうち、調査期日現在で保有している漁船の総隻数は、令和５年で2,874隻で、平成30年に比べ73隻（2.5%）減少しました。

また、漁船隻数を種類別にみると、無動力漁船が39隻、船外機付漁船が963隻、動力漁船が1,872隻で、平成30年に比べ、無動力漁船が21隻、船外機付漁船が105隻、それぞれ増加し、動力漁船が199隻減少しました。



漁船隻数の推移



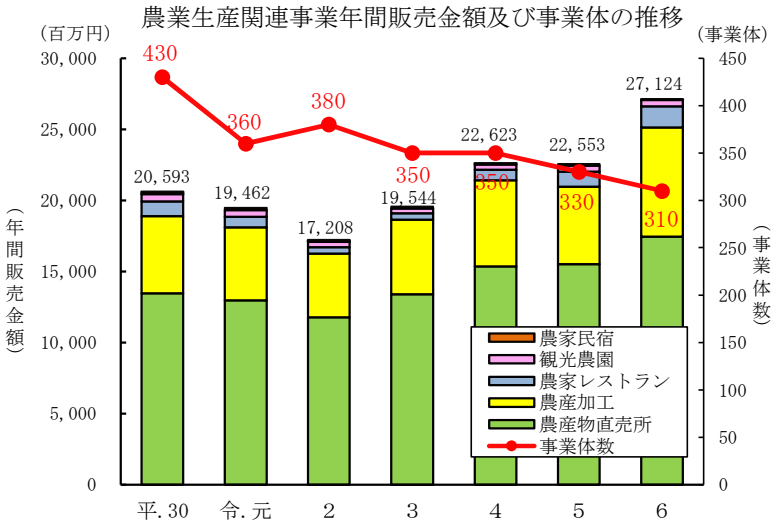
資料：農林水産省大臣官房統計部『漁業センサス』

17　農業・農村及び漁業・漁村の６次産業化

1　農業生産関連事業　－ 年間販売金額は前年に比べ増加 －

令和６年度の農業生産関連事業の年間販売金額は、271億2,400万円で、前年度に比べ20.3%増加となっています。業態別では、農産物直売所は174億4,700万円で12.6%増加、農産加工は76億9,800万円で41.2%増加しました。年間販売金額に占める業態別の割合では、農産物直売所が最も高く全体の約64%を占め、次位の農産加工と合わせると全体の約93%を占めています。





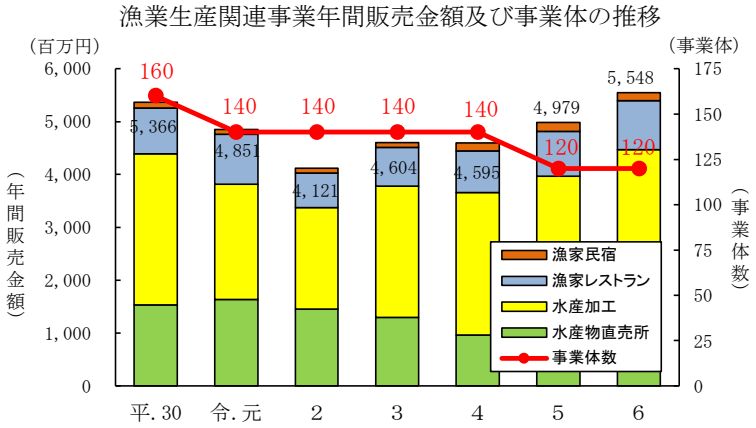
【農業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】　　単位：百万円

区　分	平. 30	令. 元	2	3	4	5	6
事業体数	430	360	380	350	350	330	310
年間販売金額（100万円）	20,593	19,462	17,208	19,544	22,623	22,553	27,124
農産加工	5,438	5,133	4,480	5,248	6,072	5,453	7,698
農産物直売所	13,463	12,970	11,786	13,397	15,348	15,497	17,447
観光農園	512	463	388	341	382	421	424
農家民宿	152	143	112	104	103	100	67
農家レストラン	1,027	753	443	454	717	1,081	1,488

資料：農林水産省大臣官房統計部『６次産業化総合調査』

2　漁業生産関連事業　－ 年間販売金額は前年に比べ増加 －

令和６年度の漁業生産関連事業の年間販売金額は、55億4,800万円で、前年度に比べ11.4%増加となっています。業態別では、水産加工は33億3,600万円で22.5%増加、水産物直売所は11億3,400万円で8.5%減少となっています。年間販売金額の業態別割合では、水産加工が最も高く全体の約60%を占め、次位の水産物直売所と合わせると全体の約81%を占めています。



【漁業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】　　単位：百万円

区　分	平. 30	令. 元	2	3	4	5	6
事業体数	160	140	140	140	140	120	120
年間販売金額（100万円）	5,366	4,851	4,121	4,604	4,595	4,979	5,548
水産加工	2,856	2,176	1,918	2,486	2,689	2,724	3,336
水産物直売所	1,532	1,639	1,454	1,294	964	1,239	1,134
漁家民宿	110	94	91	89	153	164	151
漁家レストラン	868	942	658	735	789	851	928

資料：農林水産省大臣官房統計部『６次産業化総合調査』

沖縄の農林水産業主要指標

	項目		単位	数値	全国からみた沖縄の地位 シェア(%)	順位	時点	資料出所
土地	耕地面積		ha	35,800	0.84	35	令和7年7月15日	耕地面積調査
	田		〃	725	0.03	46	〃	〃
	畑		〃	35,100	1.81	12	〃	〃
	林野面積		〃	114,586	0.46	42	令和7年2月1日	農林業センサス
人口と労働力	総農家数		戸	13,270	0.95	43	令和7年2月1日	農林業センサス
	販売農家数		〃	8,906	1.12	40	〃	〃
	農業経営体数		経営体	9,522	1.14	40	〃	〃
	個人経営体		〃	9,016	1.13	40	〃	〃
	団体経営体		〃	506	1.26	35	〃	〃
	林業経営体数		経営体	6	0.03	47	〃	〃
	漁業経営体数		〃	2,658	4.05	6	令和5年11月1日	漁業センサス
	農業従事者数（個人経営体）		人	14,235	0.82	44	令和7年2月1日	農林業センサス
	基幹的農業従事者数(個人経営体)		〃	9,873	0.95	40	〃	〃
	漁業就業者数		〃	3,268	2.69	13	令和5年11月1日	漁業センサス
	自家漁業のみに従事		〃	2,377	3.47	11	〃	〃
	漁業雇われ		〃	828	1.85	17	〃	〃
農作物の作付（収穫）面積と収穫（出荷）量	水稲	作付面積	ha	632	0.04	46	令和7年産	水稲調査
		収穫量	t	1,980	0.03	46	〃	〃
	1)野菜	作付面積	ha	1,825	0.42	45	令和4年産	野菜調査
		収穫量	t	34,725	0.27	46	〃	〃
	パインアップル	収穫面積	ha	339	100.00	1	令和7年産	果樹調査
		収穫量	t	6,030	100.00	1	〃	〃
	さとうきび	収穫面積	ha	13,700	58.80	1	〃	甘味資源作物調査
		収穫量	t	765,800	55.61	1	〃	〃
	きく	作付面積	ha	419	11.90	2	〃	花き調査
		出荷量	千本	156,300	14.94	2	〃	〃
家畜の飼養頭羽数	乳用牛		頭	3,660	0.28	31	令和8年2月1日	畜産統計調査
	肉用牛		〃	69,400	2.81	9	〃	〃
	豚		〃	174,600	1.99	15	〃	〃
	採卵鶏（種鶏を除く）		千羽	1,361	0.78	28	〃	〃

1)野菜調査は全国統一で調査する品目が対象で、ゴーヤー、へちま等は含まれていません。

沖縄の農林水産業主要指標（つづき）

	項目	単位	数値	全国からみた沖縄の地位		時点	資料出所
				シェア（%）	順位		
農業産出額と生産農業所得	農業産出額	億円	909	0.84	35	令和6年	生産農業所得統計
	米	〃	5	0.02	46	〃	〃
	野菜	〃	155	0.61	38	〃	〃
	果実	〃	70	0.69	33	〃	〃
	パインアップル	〃	26	100.00	1	〃	〃
	工芸農作物	〃	226	14.33	3	〃	〃
	さとうきび	〃	203	59.71	1	〃	〃
	花き	〃	71	2.07	15	〃	〃
	畜産	〃	367	0.99	28	〃	〃
	肉用牛	〃	147	1.87	15	〃	〃
	豚	〃	126	1.65	19	〃	〃
	鶏	〃	60	0.56	33	〃	〃
	生産農業所得	〃	290	0.71	41	〃	〃
農業経営体の経営収支	農家粗収益	千円	6,615	48.29	…	令和6年	農業経営統計調査
	農業経営費	〃	5,771	48.04	…	〃	〃
	農業所得	〃	844	50.06	…	〃	〃
林業産出額	林業産出額	千万円	58	0.12	44	令和6年	林業産出額
	栽培きのこ類生産	〃	56	0.24	37	〃	〃
海面漁業生産量	海面漁業漁獲量	t	13,502	0.48	30	令和6年	海面漁業生産統計調査
	海面養殖業収獲量	〃	18,752	2.34	16	〃	〃
	合計	〃	32,254	0.90	…	〃	〃
海面漁業産出額	海面漁業産出額	百万円	11,374	1.28	21	令和6年	漁業産出額
	海面養殖業産出額	〃	7,380	1.25	18	〃	〃
	合計	〃	18,755	1.27	22	〃	〃
漁船隻数		隻	2,874	2.63	15	令和5年11月1日	漁業センサス

注：農業経営（1経営体当たり）のシェア（%）については、全国平均の数値に対する比較です。



～統計データを見るなら～

《各種ホームページの紹介》



農林水産省

【農林水産省　統計情報】
農林水産省が実施している統計調査結果が閲覧できます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/　　こちらからアクセス！▶

【地域の農業を見て・知って・活かすDB】
地域農業の現状をグラフや地図で見える化することや、国勢調査や行政情報と組み合わせて分析することができます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html

内閣府 沖縄総合事務局

【沖縄総合事務局　統計情報】
農林水産省が実施している統計調査結果のうち、沖縄の農林水産業に関係する統計調査結果を掲載しています。

https://www.ogb.go.jp/nousui/toukei　　こちらからアクセス！▶

e-Stat 政府統計の総合窓口

統計で見る日本
e-Statは、日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイトです

【e-Stat　政府統計の総合窓口】
農林水産省を含む、政府が実施している統計調査の総合窓口です。

https://www.e-stat.go.jp/　　こちらからアクセス！▶

ただし、ホームページ上の情報は予告なしに内容を変更又は削除する場合があります。あらかじめ御了承ください。

統計データでみる沖縄の農林水産業

令和8年10月　発行

編集・発行者　内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課
〒900-0006　沖縄県那覇市おもろまち2丁目1番1号
TEL 098-866-1671（直通）